

東洋紡株式会社 2021年度第3四半期決算説明会 質疑応答要旨

日時：2022年2月10日（木） 16:00～17:00

場所：WEB形式

説明者：取締役 常務執行役員 管理部門統括 大槻 弘志

本資料中の将来の業績見通し等に関する記述は、現時点における情報に基づいており、当社として保証するものではありません。実際の業績等は、さまざまな要因により異なる可能性があります。

Q：フィルム・機能マテリアルは、3Q から 4Q にかけて売上高は上昇し、営業利益は横ばいの見通し。原料価格の高騰を、価格改定により売上高で吸収し、4Q でさらに悪化することはない見通し、との理解でいいか？

A：そのご認識で結構です。

Q：工業用フィルムの価格改定リリースをしているが、実現できそうか？

A：工業フィルムで全銘柄の値上げをリリースするのは、最近ではなかったこと（2011 年以來）。価格改定がどのようになるかは、現時点では申し上げられない。

Q：衣料繊維事業の構造改革により、適正な利益が見込める体制になるか？本改革は最終形か？

A：重複する業務の統合、マレーシアへの一部製造移管、工場休止による固定費削減により、二桁億円程度の収益性の改善は見込める。現状、取り巻く環境（原綿・燃料・副材料の高騰）は、さらに厳しくなってきたが、今回のリソース集約により、収益性が回復するかを見定める。

Q：液晶パネル業界は生産調整があったと思うが、“コスモシャイン SRF ”が数量を落とさなかった理由は何か？4Q の見通しは？

A：お客様への供給量をコントロールすることで、数量を落とすことはなかった。SRF の強みに対する認識が広まっている結果とも受け取れる。4Q においても、数量を落とす情勢にはないと考えている。

Q：品質の不適切事案に関する全社員アンケート調査の進捗状況は？報告はしないのか？

A：ご心配をおかけして申し訳ございません。海外拠点を含め、全社員アンケートを実施し、ほぼ回収は終わっている。現時点において、皆さまにご報告するような追加の問題事象は見つかっていない。22 年 3 月に調査が完了する予定であり、その後、速やかに総括の報告をさせていただきます。

Q：PCR 関連製品の売値は安くなっていないか？

A：現時点では、売値を下げるような状況にはなっていない。

Q：エアバッグ用基布事業は、足元の原料高、自動車減産は想定外だと思うが、事業環境が正常化すれば、22 年度は黒字化するか？

A：原料価格の上げ幅が大きく、本事業を正常化するには、ナフサ連動価格では足りない。一段の価格改定をお願いしていく。タイの原糸工場が 22 年に稼働するが、この状況下で 22 年度の黒字化は難しい。

以上